

人生の醍醐味

曾野綾子

産経新聞社

(まえがき)

この本に収められたエッセーは2015～17年の間、私は年を取り、丁度夫が「自宅で死にたい、病院は嫌だ」と云っていた夫を1年2～3ヶ月間ズーと家で見てきた、最後の8日間の入院は意識のないまま強力な酸素吸入設備がないと肺が持たなかったから、大体は本人の希望に沿って見送れたことは人生の醍醐味を味わったことのない私にとって、悲しみの瞬間に、その片鱗を垣間見る事で私は幸運であった。

1. 求められる“才覚”と“優しさ”

- *「自立した生活」こそ、最高の健康法～私は毎朝食事が終わると、昼と夜のおかずを決めて、直ぐに野菜の始末をして、もやしの鬚根を夫にも手伝わせて取る、指先を動かし字を書くと最高の認知症予防法になってきた、作業間のくだらない会話等の効果も実に大きい、要は自分で自立した生活を出来るだけ続ける事が人の暮らしの基本で健康法なのだ。
- *今日中にする事があれば幸せという人生～私は毎朝、今日中にする事が山のようにあっても幸せだと、しみじみ思う。贅沢な日本になって私の身近で1日何をしなくてもいい初老の夫人が「退屈なほど辛いものはない」と語っていて忘れられない、本来は怠け者の私だが1日に一つだけ気になる事を解決している様に習慣化している。
- *孤独を避け、話し相手を得る一つの方法 80代半ばの年まで癌にもかからず高血圧の薬も飲んだことがなく済んでいるのは、内でご飯を食べ 30年程前から家庭菜園を始め、自然食品に近いものを6～7割食べている、それでも私は膠原病だ、何よりも認知症が怖いから内で料理し近隣の知人を呼んで会食し合う、すると料理によっても会話によっても頭が働く、孤独感は薄れ一人暮らしにはいいもので「内のごはん」を一緒に食べる恩恵は実に偉大だ。
- *被爆悲劇の稀有な記録「いしぶみ」1970年に出版、広島二中1年生321人全員が被爆後の数日で文字通り全滅記録の本で、オバマ大統領が来日時に贈るべきだ。
- *「人生は何とかなる」という魂の強さ～リオ・オリンピックの開催前、競技場等の工事が遅れていて開会式に間に合うかと、新聞に出た頃、我が家に一緒に住んでいる日系ブラジル人の女性は大丈夫です、と保証していた、それがブラジル魂というもので私はそういう生き方が好きだ。
- *酷暑を乗り切る一工夫～最悪の場合は停電でも耐えて生きるにはどうしたらいいか？今から本気で考えている。
- *人生の幸福は学校のランクや成績とは無関係

～過去 42 年間 8 月末から 9 月2日で、全国で300人以上が自殺。宿題が出来ていないか虐めに遭うのが嫌いが原因、長い人生から見れば学校なんて、たいした事はない、少なくとも私は学校を出てからの方が多く学んだから宿題なんてどうでもいい。

* 長い文章の手紙を書く効用～息子は幼い頃「死ね」と、言っていたが流行語らしく大事には至らなかった。悪い言葉だけを禁じても犯罪は無くならない子供達に人間を語れるだけの表現力をつけさせてやる事、私は「表現力は最も平和的な武器です」と、よく言っている。

* 内容を理解せずマニュアルを繰り返す人は身近に経験することが多く不愉快ですね。

2. 「人間の基本」を鍛える

* “自分の身は自分で守る” という本能の欠如～最近の日本人に感じるのは“本能の欠如”だ、人の態度、町の空気、周囲の物音等、自分の中でおかしいと感じるのは動物的本能だ、私はやや危険な外国の地でどれ程、動物的な本能で救われた事か、本能を退化させないためには、国や社会のルール等心の半分では信じない姿勢だ。津波・洪水等のニュースを聞いたら早い目に丘に登る、危険からの脱出法は自分でよく考えておくべきだ、ほとんどは想定外で個別に熟慮が必要である。

* なぜ “人間の基本” が大切か～米・英のテレビ番組ではサバイバル番組が多い、例えば無人島で1～2週間置き去りにされるなど過酷な条件での暮らし等の番組だ。日本は亡国的な番組が多い。ある人は日本人を20歳位で数ヶ月動員訓練すれば、もっと強くなりますよ、という。

* 緊急時に一番頼れるのは自分自身～最近の人々は一番遠い存在の国家に頼るようになり、それは危険な兆候だ。

* 輝かしい実績の裏に潜む苛烈な生き方～ノーベル賞受賞の大村智博士が微生物から開発した薬がアフリカの田舎で生きていた、年に一度予防薬を飲むことで盲目を防げるが、毎年飲むことが決して易くない地域もある、村民の三分の一が盲目になってしまっている地域の実態もみた。

* 相対している人の中に“神がいる”という感覚があれば相模原市の障害施設での元職員が19人殺害した事件も振り上げた刃を下ろす事が出来なかったかもしれない。

* 何よりも大切な“同情”の能力～他人の不幸を我が事のように感じるのが同情能力。

* 体力・気力・意志力共に輝く選手に～東京オリンピックに出る選手に望みたい。

* 不運・不幸を“魂の財産”にする叡智～2001年9月11日にニューヨーク世界貿易センタービルのテロから15年経った記念日に惨事に活躍した消防士たちの一人は「自分には兄弟が一人しかいなかった、しかしあの日から50人になった」と。共に命を懸けて働いた仲間達だけに抱くことのできた新たな肉親の信頼感だ。

3. 働ける、という幸福

* 誰でもが必ずなれる“人生の成功者”の秘訣は人生で一人も殺さず自分も自殺しなければ、それだけで大成功、私は中年で鬱病だったから自殺願望があった P 2

又、50年以上運転したから事故で人を傷つける可能性はいくらでもあったが70代で運転を辞めて、これで人生の半分ぐらいは大成功だったと確信できた。

* 元気の限り働く、という幸せ

* 一億総活躍時代—高齢者の勤めとは～高齢者が引退してのんびり暮らすなどという事が出来る時代はもう終わったという事。90歳の夫の介護人をやっているので、そう解釈している、高齢な病人が一人で暮らす時期が長く続く事もある覚悟が必要、その時期に問題になるのは食べる事ではなく排泄をどうするかという事に尽きる、それができるのは家族しかいないのが現実だ。

* 善悪入り混じる状態を過不足なく書けるか～最近のマスコミに力が無くなった、人に対しても事件に対しても善悪混合の状態を過不足なく書き立てる事だ、安倍総理を誉めた話は滅多に読んだことがない。

* 人のお金を使う事の恐ろしさ～世間は甘すぎる、銀行では1円合わなくても理由が判明する迄全員が帰宅できない自分のお金の管理は楽なもの、好きなように使えばいい石原慎太郎元都知事が都庁は伏魔殿だと言ったそれ程悪く秘密の空間だった

* 高齢者の労働～無税か減税も一案、2016年9月75歳以上の後期高齢者の総人口に対する比率は13.4%女性の65歳以上の割合は3割を超えた、老人が心を引き締めて生きなければならない時代で老人は今後できるだけ長く自活の為働く決意が必要だ、85歳の私は月に200枚位書き、家事も夫の介護もする、夜はクタクタで寝る

4. “幼児的成人”がもたらすもの

* 善だけしか認めない息苦しさ～作家は善も悪も書く必然性を持っている、善しか書かなければ文学の自殺行為だ、最近のマスコミは自分が正しい事を示す為にする人を糾弾する事が好きだ、正しく伝える能力の不足化、わざと曲げて書くのか、今やその人の言葉を、そのままに伝えてくれるのはテレビの生放送だけになってしまった。

* 多数決は民主主義の原則～51%の人が賛成したら物事を定めていく、しかし最近の若者の中には民主主義は全員の意見が一致する事だ、と思っている人がいる。

* 日本人の中国嫌悪を掻き立てた外相の傲慢不遜～中国の正毅外相がテレビ対談で安倍首相に南京に来て「謝れ」と日本人の中国嫌悪を掻き立てた。

* 国民はそれ程愚か、か？～公共放送の反復警告・暑い日が続くとNHKの朝番組は「熱中症に注意して水分を補給しましょう」と同じ事を繰り返すが本当に老人に生きていて欲しい訳でもないだろう。

* 過剰なサービスが人を疲れさせる～デーケアの通信文「今日もチャント、おやつを全て食べました」等何かにつけて報告分を書かせる習慣。
学校の先生に過重な労働は有名で何事もレポートを残すが異常を感じた時だけでもいい、今の学校は生徒をお客さん扱いし過ぎている。

* 大人になっても非常識な大人たち～公開されていない勉強会の百田尚樹氏の講演会の内容を立ち聞きした新聞記者が大々的に記事にしたり、

自衛隊の表彰式で国歌斉唱の時に起立しないままのマスコミ関係者。

- * 要求する権利ばかり習う今の子供達～その先頭の世代が老年に近づいて身勝手に強欲な年寄りになりかかっている、困るのは常に若い初代なのだ。
- * 追及ばかりで議会空転ならお金の無駄遣い～都議の時間給は一体いくらになるのか？マスコミは関心を示さない、都知事を政治的・社会的に葬る事で個人的な妬みの留飲を下げたいような人達を見るのは楽しくない。
- * “きれいごと”に愛想を尽かした人達～トランプ氏を当選させたのもヨーロッパに極右勢力を台頭させそうな空気を作ったのもマスコミの幼児的なポリティカルコレクト一辺倒の姿勢の功績である。

5. 現実を正視する勇氣

- * 道義を失った日本の企業～日本人は純粹に手を抜かない正直な製品を作る職人的矜持を持った国民という事になっていたが粉飾決算を何年も見過ごし、建物強度をごまかし、血液製剤まで信用できないものにした、国賊というべきだ。
- * 心情的平和がいかにも無力か～敵のいない時代も場もない、その敵にどう対処するかを教えない心情的平和など、まず力を持たない。
- * 名所にはいつでも行けるが・・・テロやクーデター直後の町は滅多見ることが出来ない、見られるようであってはならない、だからこそ、いささかの危険や不便は自己負担での非常時に学ぶべきことは沢山ある。
- * 人類の希望を示した見事な閉会式～おめでとう！ブラジル～リオオリンピックは始まる前にとかくの悪い評判があり施設が間に合わない、治安が悪い、ジカ熱が爆発的に増えたらどうする・・・少なくとも立派に一連の行事を果たし、しかも明るくて自然で魅力的だった
- * 中国は一つではない、と言える時代～蔡英文台湾総統は 2016 年 12 月 2 日トランプ大統領に電話で祝辞を述べ、トランプ大統領もそれに応じた、そして台湾問題は、一つの中国に固執する中国の考え方に則って推移する必要はないという態度を見せた。

6. 不足があるから生きられる

- * 出来損ないの野菜にも独特の味がある～家庭菜園で春まきホウレンソウが66cmも伸びて根元まで柔らかくて甘い、毎日食べてポパイになりそうな気がしている。
- * 今日「命がある」ことを感謝する謙虚さ～大仏次郎の“帰郷”を古本で買った、この小説を毎朝待ち焦がれて読み始めたのは 16 歳の時だった、帰郷は男女一人ずつの主人公達は複雑な事情から戦時中の日本軍国主義に反逆して国を捨てた裏切り者であった、その二人が戦後、個人的な運命の変遷を、まともに受ける覚悟で帰国した運命を描いている。
- * 高齢者が自動車運転を止める時～私は 23 歳で免許を取り半世紀近く運転すると、さっさと止めた、夫は 86 歳でいいきっかけができた、ホテルの駐車場で少し車を柱でこすってかすり傷、私は好機とばかり夫に運転を止める様云い、

少し反発したが止める事に合意した。

- * 平凡な人生がなぜ“大成功”なのか～人も自分も殺さなかっただけで大成功、多くの人が子供を育てて老人の面倒を見て、仕事を勤めあげて、家族の為にご飯を作り、それらは人を生かすための行為であり、その人の人生は大成功だった。
- * 若い世代に必要な“追体験”～戦争の追体験は重い家財道具を背負って1日ぐらい食べ物なしで行進させたらいい、子供だけでなく、大人に戦争について回る貧困や食料の不足を知らせたかったら18歳過ぎてアフリカの最貧国と云われる土地の田舎や内戦の跡を見せればいい。
- * 非常時に分かる2種類の性格～決められた予定に従って行動する「段取りをする」事の上手い人と、私のように予定が狂って非常事態の時に、それを切り抜ける・素早く対処できる、二通りの使い方も、使われ方も違い、同一賃金では双方不満に決まっている、私は安くても不満は云わないつもりだが。
- * “不足”が与える生きる目的～アフリカで姥捨て村を見たことがある、人が死ぬと呪術師が呼ばれ、呪った犯人を指名する、貧しい村の経済的重荷になっている老女が始末され、村から追放され死ぬまで野を放浪する、カトリック教会の修道女たちが救済に乗り出し保護、バス車庫の様な建物の中で布団もなく、ごろ寝、朝夕に二食おかゆの様なものを与えるだけで百人を超える老女達にそれ以上の待遇ができないからだ、老女たちは一応元気で不足という状態は確実に生きる目的を与えているのだ。

7. 日本に生まれた幸せ

- * こんな日本に住めないと嘆く人達～それなら、今すぐどうぞ！と言いたくなる。
- * 抜歯で知った“日本に生まれた幸せ”～自分の抜歯の一部始終を細かく観察してみても偽歯科医ができるのではないかと思つた程に面白かつた。
- * 災害を教訓に変えられる人々～日本は災害に遭う度に人々の立派さを見せる、或いは国力のある事を示し、しかも災害を教訓に変える能力を見せる、多数の被害者を何日も飢えさせず、大局の治安も乱れず、災害の片づけが信じられない程に早い。しかし日本国民に欠けているのは「生き残り(サバイバル)の力」だ。
- * 日本人と手を組まないと損をするよ……
- * 日本の人口を増やす為の二つの方法
 - ①電気がない日を作る(暴論だが効果は出る)
 - ②一汁一菜など粗食にすると逆に受胎能力は上がる(専門家の話)

8. 人生の善し・悪し、をわきまえる

- * 世間の優しさは要求したら得られない、優しくしてほしかったら、自分が優しくする他はない、感謝のできる人間になる他はない。
- * 悪も善と同じ様に学ばせるべき～悪は善と同じ様に真っ向から突き付け、見せて学ばなければならない。中国におべっかを使わずに闘つたのは産経新聞と時事通信社、並びに、かなり多数の雑誌社等の週刊誌だったことは忘れられない。

- * 病院の予約さえもコンピューター～予約がないと無理だという受付窓口で予約したいのに電話で！と断られた。電話では不愉快な質問が長々と続いて、キーを押しても対応しきれない世代は未だ多く残っているのに、もうその病院には行かない事にした。
- * 公人のお金の使い方～舛添要一東京都知事在任中の一連のお金の使い方に関し、かなり理解していたが、記録の取り方が甘いという事に尽きる、不測の事態を予測できるのも一つの才能、悪い事を予測できなければ、あらゆる危険に対処できないのでその面を見逃さない事が大事だ。
- * 作家の本質はあくまで作品にある～作家は書かれた作品だけを読者一人一人の判断にゆだねればいい事。私自身は純粋な文学の賞というものを1つも貰っていない、それでも60年間も書き続けていて、その間無言で私の心を支え続けてくれた多くの人達がいたお陰だ。その人達にゾ～と感謝をし続けてきた。作品だけは、いつでも独立して存在している、それを各々が一人きりの解釈で読むこと、作家と読者の繋がりの醍醐味だ。

(完)